

# 2025 年度 自己点検・評価報告書

看護学部評価分科会

2026 年 2 月

## 基準5 学生の受け入れ

### 1. 学生の受け入れのための広報活動全般について、適切に実施しているか。

- ・オープンキャンパスにおける取組み
- ・授業体験や姉妹校との連携事業などの実施状況

#### 【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

2018年以降、看護学部の入学志願者数の大きな減少が続いていたため、2023年度より学部内に入試・広報・初年次教育委員会を設置し、学部事務室と連携して入試定員並びに入試採点方法等を検討するとともに、広報活動の一層の強化に努めた。広報活動については、看護学部ホームページ・インスタグラムからの発信を強化するとともに、オープンキャンパスの充実をおこなった。看護学部ホームページでは定期的に授業紹介を掲載することとし、インスタグラムでも看護学の情報、オープンキャンパスの情報を発信した。また、アドミッションズセンターと連携し、教員4名が「夢ナビ講義」を収録し、講義配信を行なった。その結果2024年度入学志願者は前年度比増(115%)となり、2025年度志願者数もほぼ前年並み(98%)で、著明な減少傾向にひとまず歯止めがかかった可能性がある。

#### <今年度の方針・改善計画>

##### 1) 看護学部ホームページの充実 教育活動・研究活動・社会貢献・学部行事等の紹介

教育活動については、領域ごとに年間計画に従い定期的にUPできるように進める。研究活動・社会貢献については、教員の情報を積極的に集め事務職員と情報を共有し、学外に公表できるように促す。

##### 2) 看護学部ホームページ以外の広報ツール

看護学部インスタグラムについては学生からのUPも多く、連携をとりつつ一層の充実に努める。日本看護系大学協議会(JANPU)の主催するホームページに、オープンキャンパス日程・内容など本学情報をUPしてもらう。

##### 3) オープンキャンパス

体験授業、わくわく体験(実習室での体験コーナー)、職員による学部のガイダンス、看護学生トークショー、国際看護研修の展示、教員相談コーナーを企画し、看護学生(主として2年性)及び教職員が共同して実施する。

##### 4) 創価学園との連携

アドミッションズセンター等と調整し、体験授業やガイダンス、教員との懇談、看護学部棟見学などを実施する。

#### 【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

看護学部における広報活動について、教員・事務職員による月1回の連絡協議会を持つようにして情報の共有や意見交換を強化し、ホームページ・インスタグラムによる発信、オープンキャンパスの内容改善を促進した。

##### (1) 看護学部ホームページ

2025年度看護学部新入生に行ったアンケート調査の結果(9月実施、53件回収)、80%の学生が本学部受験において、看護学部ホームページによる情報発信が大きく/ある程度影響した、と回答しており、新入生獲得におけるホームページの重要性が改めて浮き彫りとなった。2025年度は授業紹介2報、研究・

社会貢献 4 報、学部行事 4 報のほか、バルセロナ大学、ザンビア大学との学術交流、海外研修など 17 報の News を発信した。しかしながら、教育活動を分野ごとに定期的に発信するまでには至らず、発信頻度については更なる改善が望まれる。

#### (2) ホームページ以外の発表ツール

日本看護系大学協議会 (JANPU) の主催するホームページへのオープンキャンパス情報の掲載を行なった。インスタグラムは在学生の積極的な参加もあり、40 回以上の発信を行うことができ、学生生活紹介、行事紹介、オープンキャンパス告知など充実した内容となった。

#### (3) オープンキャンパス

7 回開催予定のうち 5/3, 5/4, 8/2, 8/3, 8/24, 9/21 の 6 回で看護学部への来場者合計 877 名、うち高校生の来場者が 225 名であった。大学全体では昨年比を大きく下回ったような回でも、看護学部の来場者は増加した回もあり、この点は比較的良好な結果であったと思われる。内容としては学部ガイダンス、体験授業に合わせて、学生によるトークコーナーを新設し好評であった。一方、カリキュラムの関係でボランティア学生の参加が極端に少ない回があり (8 月 2, 3 日)、運営にやや支障をきたした。体験コーナーの内容、運営など、更なる充実を望みたい。

#### (4) 創価学園との連携

5 月 23 日に創価小学校 5 年生を迎え、看護学部棟にて体験授業や実習室、白樺図書館の見学を行った。5 月 30 日には創大訪問模擬授業 (創価学園東京校)、6 月 12 日には関西校の創価大学研修として、講義 (講義 30 分・質疑 10 分、いずれも高校 2 年生対象) を行い、6 月 28 日、9 月 13 日には関西校に向いて講義 (それぞれ高校 3 年生、1 年生が対象) を行うとともに、看護学部志願者にかかわる注意事項を説明した。

### 【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

#### <短期計画 (アセスメント実施後 1~2 年の期間で実現可能な改善策) >

本学部入学生によるアンケートでは、看護学部ホームページを視聴し進路決定の参考にしたものが多数であったが、アクセス頻度は必ずしも高くなかった。アンケート結果によれば、更新頻度が低いことが一因と考えられる。アンケート (自由記述) では、筆記試験・面接試験等入学試験、勉学とバイト・部活・サークル活動の両立、国際看護研修の内容、総合大学で看護を学ぶことの意義 (専門学校との違い)、創価大学ならではの特色、等の情報について要望する声があった。インスタグラムとよく連携して、これら受験生の要望に応える内容を発信していきたい。

アンケートによれば、進路決定にあたって最も役に立った情報はオープンキャンパスであったとのことで、この点は本学の強みである。オープンキャンパス来場者に対して行われたアンケートでは、学生や教職員の明るさ、優しさ、人柄等が好印象であったとの声が多く、反対に、8/2, 3 の回は学生ボランティアの数が極めて少なかったことから、この回のアンケートでは学生数を多くしてほしいとの声が聞かれている。今後は参加学生の確保を十分に行うこと、教職員との連携を密にして、接遇を含む内容 (授業・展示・体験コーナー) の更なる充実を行いたい。

#### <中長期計画 (アセスメント実施後 3~5 年の期間で取り組む改善計画) >

入学生アンケートによれば、進路決定にあたって最も役に立った情報はオープンキャンパス

(71.7%)、ついで大学案内パンフレット(45.3%)、友人・先輩からの情報(39.6%)、ホームページ・インスタグラム(35.8%)となっており、家族からの情報(13.2%)、進学情報サイト(11.3%)、高校の進路指導(7.5%)等に比べて抜きん出ている。この結果から、オープンキャンパス情報をより広い層に届けること、教育・進路実績等に関する情報をより効果的に発信することが今後の課題と考えられる。

## 2. 合格者に対する入学前教育等を適切に実施しているか。また入学後の学生に必要な支援（リメディアル教育・初年次教育等）を実施しているか。

### 【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

2024年度の入学前教育に関しては、より多くの新生が参加することが可能となるよう入学前オリエンテーションを12月21日（土）と2月15日（土）の2回にわたり、在学生16名がSAとして参加して実施した。オリエンテーションには、12月21日は16名、2月15日は28名の新生が参加し、64名中44名が参加した。参加した学生からは、「入学後の勉強について知ることができたので、入学するまでに勉強頑張ろうと思いました」「交流会での先輩方の姿や準備していただいた内容を見て、本当に新生を嬉しく想ってくださっているんだと感じ、入学が楽しみになりました」「入学前の事前課題の進度が不安だったのですが、交流会で話をすることができ、不安がなくなりました」などの感想が寄せられた。あわせて、入学前の事前学習として生物・化学の基礎学力を学習するための学習補助動画をオンデマンド講義として配信し、入試区分ごとのオリエンテーション資料を事前に送信した。

初年次教育として、1年次春学期に「キャリアデザイン基礎」を開講し、内的キャリアの自己分析をとおして看護専門職を目指す志向性を高め、大学で学ぼうえで求められるアカデミックスキルを修得することで看護専門科目を学修するレディネスを整える指導を実施した。

学生ごとに看護学修のレディネスが異なり、看護専門科目の学修するうえで必須となる生物に関する知識が十分でない学生いるため、看護医科学系科目の単位修得が困難となる課題が散見される。今後、入学前の生物・化学の事前学習の必要性を新生が十分に理解し、事前課題に取り組むことが求められる。

#### <今年度の方針・改善計画>

##### 1) 入学前オリエンテーション

2025年度については、入学前オリエンテーションは、新生の参加対象入試を一般入試合格者にも拡大し、12月、2月、3月の3回にあたり実施を予定している。オリエンテーション内容は収録動画を事前に視聴し、当日は在学生のSAも参加し、新生交流会として実施を予定している。昨年度の新生交流会時に実施したアンケートをもとに、オリエンテーションの伝達事項、新生交流会の内容について検討を行い、オリエンテーションの参加率、事前課題の達成率、入学前の生物科目の理解度の向上に向けて取り組んでいく。

##### 2) 入学前教育プログラム

2025年度より入学前教育プログラム「学習SAI-TEKIプログラム」を導入する予定であり、委託業者担当者と「期待する学習成果」「重点的に強化したい教科・科目・単元」「実施中・実施後に確認したい観点」等について事前協議を行い、入学後の看護専門科目の学修につながる一貫性と順序性のある内

容として実施を図る。また、創価学園推薦入試合格者を対象に、「学園推薦入学前プログラム」を導入し、学部授業体験、国際看護研修模擬体験、卒業生との懇談会等を実施する。

### 3) 初年次教育

初年次教育については、「キャリアデザイン基礎」の授業内容の一層の充実に向けて取り組む予定である。具体的には、看護学部で導入する社会人基礎力評価「PROG」と授業を連携させ、客観的自己評価に基づく、学生の4年間のキャリアマップ作成支援を強化し、アドバイザー、実習担当教員等とも共有を図り、学生の学修支援を強化する予定である。

## 【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

### 1) 入学前オリエンテーション

2025年度は当初計画通り12月、2月、3月の3回実施を予定し、これまでに12月20日（12名参加）および2月14日（33名参加）の2回を実施した。在学生在がSA（スチューデント・アシスタント）として企画運営に参画し、新入生の不安解消と学修意欲の喚起に注力した。参加者アンケートでは「現役生と、今気になっていることを聞く事ができたり、入学後のことを話せて楽しかった」「ためになるお話を沢山聞いて、入学まで準備していきたい」など、参加者の満足度は非常に高い。一方、第1回目の参加人数が少ない点は課題として挙げられる。3回目は3月14日を予定している。

### 2) 入学前教育プログラム

2025年度よりあらたな入学前プログラムとして「学習SAI-TEKIプログラム」を導入した。看護学部では、生物、化学、国語、英語の4教科のプログラムを実施し、国語・英語は、語彙や文法、文章読解を汎用的に学習する全学部共通の内容となり、生物・化学は、看護専門科目の学修に必要な基礎学力を身に着けることを目的としている。特に、生物と化学は外部業者との事前協議を経て、入学後の看護専門科目との一貫性を重視した科目最適化を図った。課題の平均完了率は81%となっており、対象者の半数以上が100%完了しており、積極的に取り組んでいる（2026年2月18日時点）。一方、達成率のばらつきも見ることができ、担当教員が新入生の進捗を確認することができるため、入学前オリエンテーションの際にフィードバックを行い、より積極的な取り組みを促すことが求められる。

また、創価学園推薦入試合格者を対象とした独自の「学園推薦入学前プログラム」も実施し、多角的な接続教育を展開した。「学園推薦入学前プログラム」は学部として全6回を予定しており、学部は以下の5回を担当した。

開催回	日時	内容
第1回	12月8日(月)	学部長挨拶、入学前ガイダンス（収録動画）、学園出身4年生4名懇談
第3回	1月28日(水)	体験授業「構造機能と生活」担当：佐藤健人教授、大釜徳政教授
第4回	2月4日(水)	国際交流の取り組み、海外研修報告（学生2名） ドイツ・エスリンゲン大学ペトラ・ウイフォフスキー教授収録講義
第5回	2月7日(土)	卒業生懇談会（卒業生2名）
第6回	2月18日(水)	講義、教材（「ナイチンゲールを語る」） 担当、佐々木学部長、閉講式

### 3) 初年次教育

1年次春学期の「キャリアデザイン基礎」において、ジェネリックスキル測定指標「PROG」を導入した。受検結果に基づく自己分析ワークを実施し、客観的な数値データを用いた自己評価と、4年間の学修・キャリアマップ作成を連携させた。学生が自身の強み・弱みを客観視することで、看護専門職を目指す志向性の強化に繋がった。授業アンケートより、「自己分析を行い、自分の強み弱みの理解を深めることができた」「自分は何がしたいのか、何をしたときに喜びやうれしさを感じるのかを客観的に理解していくことで、自分のキャリアビジョンを見直すきっかけになり、この4年間でどんなことを学んでいきたいか、どう学んでいきたいかといった目的をはっきりさせていくことができた」との感想が寄せられた。今後、アドバイザー教員との情報共有をより推進し、個別支援の質的向上につながることを期待される。

### 【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

#### <短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

新入生を対象に、入学前オリエンテーション、入学前事前課題に関するアンケートを実施し、新入生のフィードバックをもとに、オリエンテーションと事前課題の改善を図る予定である。具体的には、オリエンテーションの参加率、事前課題の達成率、入学前の生物科目の理解度の向上に向けて取り組んでいく。

#### <中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

上記の取り組みを継続し、随時必要に応じて改善に取り組む。

### 学生の意見聴取

主として以下の観点を参考に、今年度の点検・評価および今後の方針を記入してください。

- 履修、授業、LOs に関すること
  - ・ 全学の教育目標や3つのポリシーを認識していたか
  - ・ 履修科目を決める際に、その科目のラーニング・アウトカムズを意識したか
  - ・ 自身の学びを自己点検しているか  
(履修科目のラーニング・アウトカムズの修得や、授業アンケートの自己評価について)
  - ・ 今後、DPに掲げる能力を身に付けることが期待できるか
- 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
  - ・ 学生からの意見を受けて検討および実施した取り組み等のフィードバック
- 学生生活全般に関することや機構として意見交換した事項

### 【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

2024年度の自己点検・評価では、学生の意見聴取を中心に、履修状況、授業内容、ディプロマ・ポリシー（DP）達成度、国家試験対策、就職・進学支援、アドバイザー制度など多岐にわたる項目について検討が行われた。以下に、課題と2025年度の方針および改善計画について述べる。

#### <学生の意見と評価>

1) ディプロマ・ポリシー（DP）達成度においては、学生（4年生）は、4年次秋セメに開講する既習の

実習科目の総まとめとなる「看護実践統合実習」を通じて、自己の卒業時看護技術到達度を確認する機会を得たが、主観的な評価方法に自信がなく、教員の共同確認を求めている。また、教員間の説明の違いに混乱することもあったことが意見として述べられた。DP の理解は 4 年次になってようやく深まり、履修判断に活かせるようになるとの声が多く、授業前の説明機会の充実が求められた。話し合いによる DP の確認が学びの振り返りに有効であり、ディスカッション形式での理解促進が望まれた。

2) 国家試験対策では、模試後の解き直し学習に有効である一方、補講対象の選定に課題があり、成績上位者にも補講を ZOOM などで聴講する機会を設けてほしいとの要望があった。

3) 就職支援では、先輩との交流や就職試験後の資料の活用、事務による個別支援が高く評価されており、ガイダンスによって就職活動のイメージが具体化された。

4) アドバイザー制度では、教員との関係性に悩む学生もおり、プライバシーが守られた相談の場の必要性が指摘された。

#### <今年度の方針・改善計画>

1) 2025 年度は 2022 教育課程の完成年度となる。実習中心のカリキュラム点検を継続し、卒業時看護技術到達度の向上を目指す。学生から意見が挙がった看護技術到達度の記入方法については、教員間の指導方法の統一化を図る。また、次期カリキュラムに向けて、CBT や OSCE の導入を検討する。さらに、本学の特色である国際看護研修は、継続と拡充を図る。

さらに、1 年次春学期に開講される「キャリアデザイン基礎」において、DP/CP/Los を意識した学びのポートフォリオとして、ワークブックを取り入れた。

2) 国家試験対策委員会による補講の対象学生および実施方法を再考する。補講の実施時期は、例年通り 11～12 月を予定している。

3) キャリア支援委員会と事務のさらなる連携・協働により、OBOG 会の開催や早期ガイダンスを実施する。また、「キャリアデザイン基礎」では、新人から達人までのキャリアの異なる卒業生をゲストスピーカーとして招聘し、具体的なキャリア形成の実績を語ってもらう時間を増やした。

4) アドバイザー教員との関係性に悩む学生の相談窓口を、ガイダンスにて佐々木学部長よりアナウンスすることとした。具体的には、佐々木学部長、各学年のチーフアドバイザー、事務室、その他アドバイザー以外の教員でも可能であることを周知する。また、並行してアドバイザー間の情報共有を強化する。さらに、2026 年度から始動する「看護学部 MYMAP」へのスムーズな移行のための教職員の F D を開催する。

## 【2】今年度の取組みに関する点検・評価

2025 年度は 2022 教育課程の完成年度であり、2022 教育課程で学んでいる学生の声を集約することができた。

### <対象者と意見集約方法>

1 年次：全員、Google foams による集約、回答者 72 名（回答率 98.7%）

2 年次：10 名、Google foams による集約、回答者 3 名（回答率 30.0%）

3・4 年次：8 名、対面インタビューによる回答

### <学生の意見と評価>

1) ディプロマ・ポリシー (DP) 達成度においては、各講義内で DP の説明を受けたことが語られた。しかし、説明資料の媒体が各教員で異なることから、同じ媒体であると記憶の定着に繋がるという意見があった。また、1 年次春学期に開講される「キャリアデザイン基礎」において、DP/CP/Los を意識した学びのポートフォリオとして、ワークブックを取り入れたが、言葉の意味を理解し自身の中に落とし込むのに時間がかかるため、4 年生になってようやく理解できるようになったとの声が多かった。そのため、高学年になっても DP/CP/Los をディスカッションする機会があるとよいという意見が挙げられた。なかには、学生側の問題もあることが語られ、DP/CP/Los を学部 (大学) の目標として捉えており、自分事として考えられていない側面もあることが語られた。DP/CP/Los を学ぶ機会を増やすことが課題として明らかになった。

2) 看護実践力の到達度については、2025 年度から変更になった評価基準に戸惑いがあったことが語られた。この評価基準の変更にあたっては、文部科学省から 2025 年 3 月に示された看護教育モデル・コア・カリキュラムのコンピテンシー基盤型教育に基づいた看護実践能力評価基準に沿って改訂したことが原因である。学年ごとにガイダンスにて説明がなされたが、十分理解するのに至らなかった可能性がある。特に、学生の意見では教員によつての差が指摘されたことから、教員の理解も課題であることが明らかになった。低学年では、講義・演習において意識して取り組む必要性が挙げられた。

3) 国家試験対策では、昨年度からの改善計画で挙げられた補講の対象学生および実施方法に関しては特に意見は挙がらなかった。また、学生の履修状況を鑑みて、年 5 回 (6 月、10 月、11 月、12 月、1 月) の定期模擬試験を設定したが、6 月から 10 月の間に模擬試験を増やしてほしいという意見があった。さらに、国家試験対策の学生グループの編成時期について、早い段階でのグループ編成が求められた。低学年では、1 年次から国家試験問題を解くなど意識して学ぶことの必要性が挙げられた。

4) 就職や進学に関する支援では、事務およびゼミ担当教員による個別支援が高く評価された。一方で、進学する学生の資料の少なさが課題として挙げられた。また、養護教諭を目指す学生は、関連する科目で「看護観」を求められることや、病院見学会やインターンシップが強制課題となることに対し、疑問をもっていることが語られた。学部で集約するキャリアに関するアンケートに於いて、進学者の質問項目の追加を求める声が聴かれた。低学年では、教員へ相談したいが研究室を訪ねることに抵抗をもつ学生もいるため、講義内で気軽に訪ねてよいことを伝えて欲しいとの要望があった。

5) アドバイザー制度では、アドバイザー教員との関係性に悩む学生の相談窓口をガイダンスにて周知したが、アドバイザー教員との関係性に悩む学生の相談はみられなかった。低学年では、面談の機会を増やして欲しいことや、アドバイザー教員に相談しやすい体制の構築を求める声が挙げられた。また、2026 年度から始動する予定の「看護学部 MYMAP」を一部始動し、順調に進んでいる。引き続き 2026 年度からは、学生の学修ポートフォリオとして学生ポータルで管理運用することとなっている。

6) その他、低学年の学生で、看護過程の展開で使用する理論の統一を求める声が挙げられた。具体的には、2 年次で使う看護過程の理論の枠組みと、3 年次で使う枠組みが異なるため、統一できないかという意見である。本件に関しては、実習目的に沿って適した理論を使うため、学生が負担感を感じていることが以前より挙げられており今後、検討の余地がある。

### 【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

- 1) DP/CP/Los について、学生がディスカッションする機会を設ける。具体的には、3年次春セメに開講される「疫学・保健統計」もしくは3年次秋セメに開講する「看護とキャリアデザイン」で検討する。また、DP/CP/Los の理解を促進するために、カリキュラムマップを活用し、説明資料を統一する。さらに、授業評価アンケートで、DP/CP/Los の理解を問う項目を学部独自項目として取り入れる。
- 2) 看護実践力の到達度について、特に演習科目において看護実践力到達度の項目を意識して授業計画を示すよう教員へ周知する。また、教員の学生支援の統一化を図るため、学部組織の教育評価質向上委員会によるFD研修会の中で全体共有する。
- 3) 国家試験対策では、学部組織の国家試験対策委員会で模試の間隔や回数を検討することや学生グループの編成時期を再考する。具体的には、4年次の模試回数を増やすことや、学生グループの編成は低学年での編成を検討する。
- 4) 就職や進学に関する支援では、進学する学生への相談窓口の強化や閲覧できる資料の拡充など、学部組織のキャリア支援委員会で検討する。病院見学会やインターンシップの強制課題に関しては、その目的と必要性の説明を強化する。
- 5) アドバイザー支援では、2026年度から学生ポータルで管理運用する「看護学部 MYMAP」の評価を行う。また、引き続き相談窓口をガイダンスで周知する。
- 6) その他、看護過程の理論の枠組みに於いての課題は、現行カリキュラムに於いて学生の混乱を防ぐために学部組織の教育評価質向上委員会で検討進行中である。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

- 1) 入学時のオリエンテーションの時期に1年次から4年次までの学生による学生のためのピア研修会を開催する。研修会では、仲間をつくることは勿論であるが、80人が看護師国家試験合格という共同目標の下、4年間の学習スケジュールを理解することを目的に、①DP/CP/Los、卒業時看護実践力到達度の理解の促進、②国家試験対策、③キャリア対策、④アドバイザーの有効活用、⑤学生活動やサークル活動など、学年縦割りのピアワークの機会を計画する。
- 2) 2026年度から始動する「看護学部 MYMAP」の評価を定期的に行い、学部教員のFD研修会で課題を探り、改善案を次期カリキュラムに導入する。